

素案 050929

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画

2024年～2028年

～ (キャッチフレーズ) ～

2024年3月

岡谷市教育委員会

はじめに （案文）

子どもにとって読書活動は、悲しみや喜びの感情を知り、思いやりの心を育て、豊かな人間関係を築くコミュニケーション能力の源になります。また、読書によって感性が磨かれ、想像力や思考力、表現力が高まり、心豊かに生きるための力が培われます。

近年、子どもたちの読書を取り巻く環境は急激に変化しており、IT技術の進展により読書離れの傾向が続いています。読書は将来の自分の生き方に大きな影響を与え、これからの時代を自ら切り拓き生き抜くための知恵と能力を身につけるために、各成長期において切れ目なく読書活動を推進することが重要となっています。

子どもの読書活動の基本は「家庭」にあります。家族の温もりの中で読書に出会い、保育園・幼稚園から小中学校、高校と、集団生活で切磋琢磨する中であっても、家庭の愛情が子どもの成長を支え続けます。家庭と保育園・幼稚園、学校における日常的かつ継続的な読書活動の実践が求められています。

また、岡谷市では、岡谷図書館を中心に関係組織やボランティアグループによる連携した取り組みが長年にわたり継続しています。この伝統を受け継ぎ、全ての子どもがあらゆる場所で読書に親しむ機会を得られるよう、読書環境の充実を図ります。

本計画を道標として、岡谷で生まれ育つ子どもたちが、ふるさと岡谷に誇りと愛着をもち、本との出会いで得た感動や楽しさと知る喜びを体験しながら、何事にも主体的に取り組む姿勢や自己肯定感を身につけ、たくましく成長することを願っています。最後に、計画の策定にあたりお力添えいただいた多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

岡谷市教育委員会
教育長 宮 坂 享

目 次

第1章	計画の策定にあたって	
1	計画策定の趣旨と背景	5
2	計画の期間	5
3	計画の対象	5
4	計画の体系	5
5	計画の位置づけ	6
6	国・県における読書活動推進の考え方	6
第2章	施策と取組み	
1	第3次岡谷市子ども読書活動推進計画の検証と課題	
§	施策1 家庭における子どもの読書活動の推進	7
§	施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進	8
§	施策3 学校における子どもの読書活動の推進	8
§	施策4 図書館における子どもの読書活動の推進	9
§	施策5 公民館・こどものくに等における子どもの読書活動の推進	9
§	施策6 読書活動団体における子どもの読書活動の推進	9
【参考】	岡谷市における子どもの読書活動の現状	10
2	第4次岡谷市子ども読書活動推進計画の施策	
§	施策1 家庭における子どもの読書活動の推進	11
§	施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進	13
§	施策3 学校における子どもの読書活動の推進	15
§	施策4 図書館・公民館図書室等における子どもの読書活動の推進	17
第3章	計画の進行管理	19
第4章	資料編	
1	第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員名簿	20
2	第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定の経過	20

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画 計画概要

基本目標

読書を楽しみながら、豊かな感性を育み、
生きるための力を高めることをめざします。

基本方針

- 1 読書習慣の定着
- 2 発達段階に合わせた読書活動の取り組み
- 3 読書環境の整備・充実
- 4 情報提供や場の提供



施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

- ① 出産前の親が読書と子育てについて理解を深める取り組み
- ② 親子の愛情を育む中で、読書への興味や関心を抱かせる取り組み
- ③ 環境に配慮しながら読書を通じて家族の絆を深める取り組み
- ④ P T Aの読書推進活動等への支援

施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

- ① 親子で本に親しむ機会を充実する取り組み
- ② 就園前の親子が本に親しむ取り組み

施策3 学校における子どもの読書活動の推進

- ① 伝統的な朝読書を拡充する取り組み
- ② 読書手帳を活用し読書活動の推進を実感する取り組み
- ③ 自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、探求心や想像力を高める取り組み
- ④ 岡谷図書館と学校図書館とのネットワークを強化する取り組み
- ⑤ タブレット端末を用いて電子書籍を活用する取り組み
- ⑥ 電子書籍の普及により不読率の改善を図る取り組み

み

施策4 図書館・図書室等における子どもの読書活動の推進

- ① 豊富な児童書を活かし、本に触れる機会の充実を図る取り組み
- ② 子どもの背中を押し続けるブックリストを作る取り組み
- ③ 身近な場所での読書環境を整える取り組み
- ④ 読書活動バリアフリー化の取り組み
- ⑤ 読書に関係する団体を育成、支援する取り組み

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨と背景

本市では、子どもの読書活動の推進を図るため、令和元年3月に令和5年度までの5年間の「第3次岡谷市子ども読書活動推進計画」を策定し、さまざまな施策に取り組んできました。しかしながら、令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の影響が社会全体におよび、非常事態宣言の発令等により、行動の制限や感染防止対策等、これまでの生活様式を大きく見直すことを余儀なくされました。このことにより、人々の行動や意識も変化し、現在では新しい生活スタイルが定着しつつあります。こうした状況下において、非常事態宣言中のステイホームで読書への関心の高まりが見られ、さまざまな分野でオンライン化が一気に進みました。特にGIGAスクール構想により、学校現場では1人に1台の端末が導入され、子どもたちを取り巻く情報環境は大きく変わりました。

また、令和4年8月には、県内全市町村と県との協働による電子書籍を貸し出す電子図書館もスタートしました。

新たに策定する計画は、前計画の取り組みの成果や課題を踏まえ、岡谷市の基本的な考え方と施策を示し、保育園や幼稚園、学校および読書活動ボランティア等による子ども読書活動推進の指針となる計画とします。

2 計画の期間

計画の実施期間は、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度までの5年間とします。

3 計画の対象

この計画の対象は、0歳から概ね18歳までの子どもとします。子どもの発達の過程に即した読書活動を推進するために、家庭、保育園・幼稚園、学校、地域、関係団体を対象とします。

4 計画の体系

基本目標「読書を楽しみながら、豊かな感性を育み、生きるための力を高めることをめざします」

- 基本方針
- 1 読書習慣の定着
 - 2 発達段階にあわせた読書活動の取り組み
 - 3 読書環境の整備・充実
 - 4 情報提供や場の提供

基本目標および基本方針を受け、「成長樹（期）子育て実践ポイント」におけるライフステージにあわせた4つの施策を推進します。

5 計画の位置づけ

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律平成 13 年（2001 年法律第 154 号）第 9 条に基づき策定するもので、岡谷市の子どもの読書活動を推進するための総合的な計画です。また、第 5 次岡谷市総合計画の教育分野の個別計画として位置づけ、「岡谷市教育大綱」および「岡谷市生涯学習推進計画」の掲げる方針に基づくものです。

6 国・県における読書活動推進の考え方

(1) 国の基本方針

- 不読率の低減
- 多様な子どもたちの読書機会の確保
- デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 子どもの視点に立った読書活動の推進

第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について（通知）

（令和 5 年 3 月 28 日付 4 文科教第 1858 号）

(2) 長野県の基本理念と目指す姿

基本理念：豊かな読書を子どもたちに ～発達段階に応じた取組～

<目指す姿>

- 心や言葉を育む「読書」
- 「知る」ことの楽しさをもたらす「読書」
- 創造性と生きる力を育むための「読書」
- 世界観を拡げ、社会とかがわるための「読書」



◎人生に生かす

これからの予測困難な未来を自ら切り拓き、
夢を実現する力を身に付けられる

（第 4 次長野県子ども読書活動推進計画）

第2章 施策と取組

1 第3次岡谷市子ども読書活動推進計画の検証と課題

第3次計画の策定時には想定できなかった社会全体の急激な情勢変化により、施策として掲げた29の取り組みの多くが中止・縮小となり、目標指数を達成できない状況となりました。

以下に、各施策の検証と主な目標指数、今後の課題を示します。

§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

ファーストブックプレゼント事業は定着しており、本に触れ読み聞かせのスタートとして大切な機会となっています。乳幼児期や学校、その先の将来に向けての本との出会いにつなげるため「成長にあわせたブックリスト」をあわせて配布しました。

P T Aによる読書活動については、役員の負担軽減等を理由にP T A図書部（委員会）の活動の見直しがされています。

ファーストブックプレゼント事業 *目標指数：対象児への配布率

(年度)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
目標指数(%)	100	100	100	100
実績(%)	95.7	97.2	90.7	91.2

【今後の課題】

- ・ファーストブックプレゼントの配布率の向上
- ・学校の実情に合わせたP T A（保護者）の読書活動の支援

《用語の解説》

・GIGA スクール構想：児童生徒に1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別に最適化され資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現するもの。

（文部科学省作成リーフレット「GIGA スクール構想の実現へ」より）

§ 施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

保育園・幼稚園では、日々の活動の中で絵本の読み聞かせを積極的に行っています。未就園児親子交流での読み聞かせのほか、パネルシアターなどを活用し、保護者も読み聞かせの楽しさを体験することで読書の大切さが伝えられています。子どもたちの身近にいつでも絵本があるように、保育園・幼稚園の親子文庫を設置、配本し読み聞かせ等にも活用しています。

保育園・幼稚園の親子文庫事業 *目標指数：年間貸出冊数

(年度)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
目標指数(冊)	47,500	57,000	57,000	57,000
実績(冊)	47,074	36,070	19,791	37,336

【今後の課題】

- ・ 保育園・幼稚園の親子文庫の継続と運営の支援

§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進

「朝読書」は全小中学校で定着しています。岡谷図書館の「分館（アネックス）」として岡谷図書館の本を教室に配置し、岡谷図書館の本の返却ポストを設置する等学校との連携を図りました。

岡谷図書館との連携 *目標指数：アネックス等学校への年間貸出数

(年度)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
目標指数(冊)	—	8,652	8,652	8,652
実績(冊)	—	3,635	5,119	5,974

【今後の課題】

- ・ 学校が必要とする岡谷図書館の役割の把握
- ・ 朝読書に携わるボランティアの育成支援
- ・ 電子図書館「デジとしょ信州」の授業等での活用

§ 施策4 図書館における子どもの読書活動の推進

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、事業内容の見直しを図りながら、「おはなしの森」「としょかんこども読書まつり」等の行事を開催しました。

また、テーマブックコーナーや市各部署で実施するさまざまな事業に関連した書籍を展示しました。

読み聞かせ事業 *目標指数：「おはなしの森」参加者数

(年度)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
目標指数(人)	700	770	850	940
実績(人)	689	376	390	457

【今後の課題】

- ・ 行事やイベント内容の見直しと新しい取り組みの検討
- ・ 司書等スタッフのスキルアップ

§ 施策5 公民館・こどものくに等における子どもの読書活動の推進

3公民館は、地域の身近な図書室として小学生を中心に利用されています。

「こどものくに」では、子どもと保護者が本に親しむ環境が整っており、「おはなしたまご」などの絵本の読み聞かせも行われています。

「こどものくに」における読書活動 *目標指数：行事への参加者数

(年度)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
目標指数(人)	560	620	620	620
実績(人)	560	456	184	277

【今後の課題】

- ・ 公民館図書室の利用推進

§ 施策6 読書活動団体における子どもの読書活動の推進

読書ボランティア連絡会「おはなしだいすきポポーの木」と協働し、「おはなしの森」「としょかんこども読書まつり」等を開催しました。

岡谷図書館との協働 *目標指数：連絡会の構成団体数

(年度)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
目標指数(団体)	6	8	10	12
実績(団体)	6	6	6	6

【今後の課題】

- ・ 読み聞かせボランティアの育成と支援

【参考】岡谷市における子どもの読書活動の現状

(1) 岡谷市の18歳以下の子どもの数

6,876人（令和4年10月1日現在） 前年比 △125人

(2) 岡谷図書館の児童書の蔵書数

103,895冊（蔵書全体に対する割合44.3%、諏訪6市町村全体30.2%）

(3) 児童書の貸出冊数の推移（R4年度）

①本館 (冊)

2018年度 (H30)	2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)
85,879	83,409	62,334	72,499	73,145
38.4%	38.9%	39.0%	40.5%	39.7%
対前年度比	△2,470	△21,075	+10,165	+646

*%は総貸出冊数にしめる児童図書館の割合

②公民館図書室（川岸・湊・長地） (冊)

2018年度 (H30)	2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)
16,950	17,765	11,053	9,880	8,677
対前年度比	+815	△6,712	△1,173	△1,203

③保育園幼稚園親子文庫 (冊)

2018年度 (H30)	2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)
47,396	47,074	40,241	19,791	37,336
対前年度比	△322	△6,833	△20,450	+17,545

④18歳以下の利用者への図書貸出冊数（本館のみ） (冊)

2018年度 (H30)	2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)
47,300	46,849	31,418	39,631	41,746
対前年度比	△451	△15,431	+8,213	+2,115

2 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画の施策

§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

胎児期は、保護者が家庭における読書の重要性を認識し、生まれ来る子どもが本に親しむ環境を整えることが大切です。お腹の赤ちゃんには既に感覚や意識と感情が備わっています。母親が育児に備え読書する姿は赤ちゃんにも伝わります。また、乳幼児期の読み聞かせでは、親との肌の触れ合いが、子どもの安心感とともに自己肯定感の土台となります。初めて本に触れる機会を大切にし、子どもの人生における読書活動のスタートを支援します。さらに、家庭においては環境やエネルギーに配慮しながら家族の絆や団らんを大切にする「家族でエコ読」を推進します。

前計画では、ファーストブック事業の配布率の向上と、PTA 活動の学校ごとの実態にあわせた支援が課題とされています。

《具体的な事業・取組》

① 出産前の親が読書と子育てについて理解を深める取組

胎児期には、出産を控えた保護者を対象とした「パパママ教室」などの機会に、電子図書による育児書の貸し出しや乳幼児が本に親しむ環境づくりを整える事業を検討します。

② 親子の愛情を育む中で、読書への興味や感心を抱かせる取組

「ファーストブック事業」及び「ファーストチョイスブック事業」を継続実施し、配布方法の見直しにより配布率の向上に努めます。

③ 環境に配慮しながら読書を通じて家族の絆を深める取組

毎月第3日曜日の「うち読でエコ読」を「家族でエコ読」と改め、家族が集まり節電を心掛けながら本を読む習慣の仕組みづくりを検討します。

④ PTA の読書推進活動等への支援

各学校の状況に応じた PTA 図書部の活動や保護者による読み聞かせの実施などの支援に努めます。

【成長樹(期)子育て実践ポイントより】※おかや子育て憲章を具現化した子育て実践ポイント

○乳児期（0歳）・幼児期（1歳～5歳）

「絵本は乳児・幼児の心と言葉を育てます。いろいろな絵本を親子でいっしょに見たり読んだりしましょう」

○小学校期

「子どもも学校での人間関係、学業成績などたくさんのストレスがあります。悩みを聞いて子どもに安心感を持たせてあげたり、家族そろって読書の時間をつくらしたりするなど、家族のコミュニケーションの時間をつくりましょう」

○中学校期・高校期

「本を読むことで、子どもの知識と想像力が膨らみます。時には人生に影響を与えるような本に巡り合うことも。子どもが生涯を通じて読書をたのしめるように導いてあげましょう」

《家庭における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 子どものころに読んだなつかしい絵本を読んでみませんか。
ぜひ声に出して読んでみてください。おなかの中の赤ちゃんへ最初の読み聞かせになると思います。
- 岡谷図書館やこどものくにに出かけてみませんか。
ファーストブック以外にも0歳児からの絵本がたくさんあります。子どもたちの「はじめての読書」は、お父さん・お母さんの読み聞かせです。お気に入りの絵本を探しにお出かけください。
- まず、大人がテレビを消して、スマホを本に持ち替えてみませんか。
30分くらい本を読んでみませんか。そして子どもと一緒に「本を読む時間」が持てれば、それが「家族でエコ読」の時間です。

《用語解説》

- ・「ファーストブック事業」:子どもと保護者に読みきかせの楽しさを経験してもらうために、9・10か月健診時に絵本をプレゼントする事業。
- ・「ファーストチョイスブック事業」:3歳児を対象にオリジナルイラスト付き図書館利用カードをプレゼントする事業。実際に、岡谷図書館へ来館して子ども自身が絵本を選び、借りることを経験する。

《 目標指標 》 「岡谷図書館における絵本・児童書の貸出冊数」

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
119,158 冊	119,000 冊

◇評価に用いる項目例

- ・ 行事・イベントへの参加者の感想
- ・ バリアフリー図書の利用者の声
- ・ 公民館図書室指導員の意見
- ・ 読書関係団体グループの意見

§ 施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

岡谷市内には公立保育園13園(うち1園休園)、私立認定こども園1園、私立保育園2園、私立幼稚園3園があり、すべての園に岡谷図書館から絵本を配本し、親子文庫として配置しています。保護者による読み聞かせとともに、子どもが自らの意思で本を選び表紙を開く機会の充実に努めます。また、遊戯や演劇の題材としての昔話や童話を通じて読書への関心を高めます。さらに、未就園児親子交流は、家庭から園への懸け橋の事業としてスムーズな移行を支援します。

前計画では、親子文庫が身近な本に触れる機会として成果を上げた一方で、貸し出し等の運営に対する支援が課題とされています。

《具体的な事業・取組》

① 親子で本に親しむ機会を充実する取組

保育園・幼稚園の親子文庫事業では、子どもとともに保護者も一緒に本を楽しむため、貸し出し希望の多い新刊本などを配布し、園と保護者会の協働を支援します。

② 就園前の親子が本に親しむ取組

未就園児親子交流では、未就園児とその保護者が市立保育園に集まり、保育園での生活を体験します。その中で保育士が読み聞かせなどを行い、家庭から園への読書活動のステップアップを図ります。

《保育園・幼稚園における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

● 岡谷図書館の「おはなしの森」に来てみませんか。

毎週土曜日午前11時から、図書館職員やボランティアによる読み聞かせや紙芝居、エプロンシアターなどを行っています。大人の方も一緒に絵本を楽しんでください。

《用語解説》

- ・「親子文庫」：岡谷図書館から市内の保育園幼稚園に毎年絵本を配本し、園内に設置。
- ・「未就園児親子交流」：保育園入園前の子どもと保護者を対象に、在園児との交流や保護者同士の交流の場として、毎月各保育園で実施。

《 目標指標 》 「親子文庫の貸出冊数」

保育園・幼稚園の親子文庫貸し出し冊数

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
37,336 冊	37,500 冊

<参考> 令和5年5月1日現在園児数 1,210人(対前年度比△46人)

◇評価に用いる項目例

- 貸出しに協力した保護者の感想
- 保育園・幼稚園園長の意見
- 新刊図書希望調査時の園の意見

§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進

全小中学校で伝統的に行われている「朝読書」は、子どもが読書習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。また、学校図書館は、子どもたちが日々興味や関心を持つ本を自ら手にとり学習する場として司書教諭と図書館指導員が子どもたちを支援しています。さらに、各成長段階への懸け橋として、「岡谷図書館分館（アネックス）」が保育園・幼稚園から小学校へ、電子図書館「デジとしょ信州」は中学校から高等学校への読書活動の継続性と発展性をもたらす役割を果たします。この電子図書館は、学校教育への活用も期待され、ふるさとの歴史と文化を学ぶ地域資料や防災資料の電子書籍化を検討します。

高等学校においては、専任司書教諭の指導により、将来を見据えた生きる力を身につける読書指導が行われています。

前計画では、朝読書が定着する一方で、読み聞かせのボランティアの育成やレファレンスの充実と電子図書の授業での活用が課題とされています。

《具体的な事業・取組》

① 伝統的な朝読書を拡充する取組

小中学校において朝読書のさらなる拡充を図り、生活リズムの中へ読書習慣の定着を図ります。また、これからの「読書」の選択肢を増やすため、タブレットを用いた電子図書の体験等の導入を検討します。

② 読書手帳を活用し読書活動の推進を実感する取組

100冊読了の記念品を見直し、自分の読書活動を振り返り成長を感じられる取り組みを検討します。

③ 自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、探究心や創造力を高める取組

学校図書館教育推進委員会と学校図書館指導員会との連携を進め、「調べ学習」のための資料の相談に対応します。

④ 岡谷図書館と学校図書館とのネットワークを強化する取組

岡谷図書館で借りた図書を学校図書館等で返却できる制度のさらなる拡充を検討します。また、教職員のレファレンスへの対応を強化し、岡谷図書館と学校図書館・児童・生徒・教職員とのネットワークを強化します。

⑤ タブレット端末を用いて電子書籍を活用する取組

電子図書を活用し、防災教育や岡谷スタンダードカリキュラムでの養蚕や製糸業などふるさと学習への活用を検討します。

⑥ 電子書籍の普及により不読率の改善を図る取組

市町村と県が協働運営する「デジとしょ信州」の登録利用の拡大を図り、不読率の改善に努めます。

《学校における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 小学生になっても読み聞かせは楽しいもの。
「もう小学生になったんだから」ではなく、自分で本を読めるようになって
も読み聞かせを続けてください。人に読んでもらう楽しさは格別です。
- 朝読書の読み聞かせのボランティアをしてみませんか。
学校には読み聞かせのボランティアグループがあります。朝読書の時間に、
子どもたちへ読み聞かせをしてみませんか。

《用語解説》

- ・「朝読書」：学校で毎朝授業の始まる前の10～15分間、自分の読みたい本を読む、朝の読書活動
- ・「岡谷図書館分館（アネックス）」：子どもたちの身近に本があるように、市内小学校1、2年生を対象に市立図書館の本をクラスに貸し出す事業。
- ・「岡谷スタンダードカリキュラム」：地域の資源を活用した学びを推進し、郷土に誇りを持ち、ふるさと回帰の心を育むために岡谷市が独自に構築したカリキュラム。
- ・「デジとしょ信州」：電子書籍を貸し出す市町村と県による協働電子図書館。令和4年8月5日から開始した。
- ・「不読率」：公益社団法人全国学校図書館協議会実施の「学校読書調査」内で、「5月1か月間で読んだ本が0冊の子どもの占める割合。

《 目標指標 》 「岡谷図書館における子どもたち(*注)への貸出冊数」

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
47,382 冊	47,000 冊

*注…18歳以下の利用者（カード）の貸出冊数
デジとしょ信州は20歳未満の貸出冊数

◇評価に用いる項目例

- ・ 学校図書館司書（学校図書館指導員）の意見
- ・ 児童・生徒の読書に対する思い（アンケート等）
- ・ 学校図書館教育推進委員会の意見

§ 施策4 図書館・公民館図書室等における子どもの読書活動の推進

前計画では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも行事やイベントの開催により、子どもたちの読書への興味を高めた一方で、内容の見直しや司書等のスキルアップ、公民館図書室の利用促進が課題とされています。関係団体では読み聞かせ等のボランティアの育成と支援が課題とされています。

本市における子ども読書活動推進の中心的役割は市立岡谷図書館が担い、湊、川岸、長地地区の3公民館図書室は、岡谷図書館から遠い子どもたちへの読書活動推進の場所でもあります。また、保育園・幼稚園、小中学校、高等学校及び読み聞かせ団体の「おはなし大好きポポーの木」等との連携をさらに深め、切れ目のない読書活動推進施策を展開します。

《具体的な事業・取組》

① 豊富な児童書を活かし、本に触れる機会の充実を図る取組

岡谷図書館では、「おはなしの森」や「読書まつり」など各成長期の段階に応じた行事やイベントを企画し開催します。また、児童書の収蔵割合の高い特徴を生かし、絵本や紙芝居の館内外での活用を進めます。さらに、機能的な施設の特徴を活かすとともに、施設の維持管理に努め、愛着と誇りを持てるスペースの提供に努めます。

② 子どもの背中を押し続けるブックリストを作る取組

子どもの成長期や目的に応じて、読書活動を後押しする図書のおすすめリストを、保育園・幼稚園の保育士、小中学校の図書館司書などの意見をもとに作成し更新します。

③ 身近な場所での読書環境を整える取組

湊、川岸、長地の公民館に設置された図書室では、子どもたちが歩いて利用できる読書の場として一層の活用を図ります。また、地域における子育てサークルや育成会、子ども食堂など、さまざまな地域での活動を通じて読書活動の推進を図ります。

④ 読書活動バリアフリー化の取組

デジタル社会の新たなツールとしての電子図書館を活用し、視覚障がい児や学習支援や日本語支援が必要な子どもたちへの読書機会の提供を模索します。また、多国籍の在住外国人の子どもが図書館を利用し母国語と日本語で本に親しむ仕組みを検討します。

⑤ 読書に関係する団体を育成、支援する取組

関連団体との連携では、読み聞かせ団体や読書サークルとの協力を継続的に行い、グループ活動の支援を行います。また、子育てサークルや子ども食堂などに出向いて読み聞かせをする等、地域において読書活動を広める取り組みを応援します。

《図書館・公民館図書室における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 読み聞かせのボランティアをやってみませんか。
学校で、図書館で、子どもたちに絵本を読んでもみませんか。

《用語解説》

- ・「お話しいすきポポーの木」：図書館や学校等で読み聞かせ等の活動を行っている市内のボランティアグループと個人で構成されたボランティア団体の連絡会の愛称。
- ・「子ども食堂」：家庭の負担軽減と孤食解消を目的として民間団体が実施する食堂

《 目標指標 》 「読書活動推進のための事業実施数」

岡谷図書館及び公民館図書室が実施する事業やイベントの回数

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
50回	75回

＜参考＞ 岡谷図書館のイベント等

おはなしの森、ちいさなおはなしの森、工作教室、子ども読書まつり、
としょかんキッズ、ぬいぐるみお泊り会等

◇評価に用いる項目例

- ・ 事業に参加した人の感想
- ・ 事業を実施した団体・グループ等による課題

第3章 計画の進行管理

計画の進捗状況の把握や取り組みの評価は、PDCA サイクルにより常に見直しを図ります。

このうち、チェック（評価）においては、目標数値の達成度だけでなく、事業内容や行事等に参加した子どもや保護者の声を聞き、目に見えない成果や表面に数値では現れない状況を岡谷市子ども読書活動推進会議に示し、評価を議論します。



第4章 資料編

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

委員長 有識者	小松 厚	副委員長 読書活動団体 林 勝子
---------	------	------------------

委員 有識者	林 尚江	委員 学校	塩澤 真千子
// 有識者	酒井 重明	// 学校	守屋 守
// 有識者	濱 元氣	// 学校	清水 めぐみ
// 読書活動団体	小林 照宏	// 学校	河西 美奈子
// 行政関係	田中 美晴	// 行政関係	矢澤 亜矢
// 行政関係	小口 みさき	// 行政関係	花岡 ひさ江

事務局 生涯学習課（市立岡谷図書館）

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定の経過

年 月 日	内 容
令和5年5月31日	第1回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (委員委嘱、正副委員長選出、計画の概要説明)
7月26日	第2回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (計画の素案について協議)
9月29日	第3回第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (計画の素案について協議)